国際ロータリー　第２５７０地区　第４グループ

皆野・長瀞ロータリークラブ

週報

◇例会日　第１・第２木曜日　１２：３０～１３：３０　第３・第４木曜日のいずれか　１８：３０～１９：３０
◇例会場　長瀞レクリエーションホテル　養浩亭
◇事務所　〒369-1305　秩父郡長瀞町長瀞１４４６　養浩亭内
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134　e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

CREATE LASTING IMPACT

持続可能なインパクトを生み出そう

第１７４４回例会　令和８年１０月２７日（火）

【会長の時間】　代理　畝　徳治



皆さん、こんにちは。秩父クラブには先週に引き続きお世話になり、ありがとうございます。山田会長の代理として、ここに立たせていただいております。

本日はガバナー公式訪問ですが、原島ガバナーは秩父クラブ所属ですので、従来のガバナー公式訪問とは少し違う雰囲気かなという気がしております。

原島ガバナーについて、思い出す事があります。以前、武蔵嵐山の研修所でＲＬＩ研修を受講しました。クラブから私一人で参加したので、心細いなと思っており、研修所に着いた時に、誰か知り合いがいないかと見回して、原島さんに気づきました。よろしくお願いしますと声を掛けました。研修が始まり、驚いたのは、私は受講生として参加したのですが、その時に原島さんは講師でした。私よりだいぶ若いのにと驚きました。その研修では、優しく親切に指導していただきました。

これまでのガバナー公式訪問では、私自身、学校行事にあるような教育長の学校訪問と同じように、クラブの活動状況を監査するために来るのかなという解釈しておりました。そんな事があり、私は、公式訪問の時の会長の時間では、ロータリー的な話という事で、例会に準じた話をしてきましたが、最近は、改めて考え直したのは、ガバナー公式訪問は、ガバナーのお話をうかがう研修の機会だという解釈に変わりましたので、今日は研修生の気持ちで、出席させていただきました。

原島ガバナーには、ＲＬＩ研修と同様に、優しく親切に、指導していただけると、楽しみにしております。ご指導、よろしくお願いいたします。

【幹事報告】　小埜　和也



先週に引き続き、本日も皆野・長瀞は４名の会員で、例会に参加させていただきます。

午前中には、入会３年未満会員とガバナーとの懇談会にも参加させていただきました。たくさんの皆様と意見の交換が出来た事は、普段７名で活動しておりますので、こういった会に参加させていただけるだけでも、勉強になりますし、ロータリーがどういうものかが分かる例会に参加させていただき、感謝申し上げます。

また、地区では国際奉仕推進委員会の副委員長も仰せつかっております。バルセロナ世界大会では、ガバナーと良い会にしたいと思います。

ガバナー卓話

ＲＩ第２５７０地区

ガバナー　原島　生慈様



ガバナーの原島ですなどと言うと、よそよそしいですね。例会場に久しぶりに来て、本当にほっとしています。公式訪問も今日で最後になります。この体調で乗り切れるかどうか、心配でしたが、何とかここまで漕ぎつけました。皆さんに感謝です。特に今日も来ていただいた五十嵐補佐、橋本次年度地区幹事、ありがとうございます。それから、秩父クラブ、皆野・長瀞クラブの会員の皆様には、随行を含めて、支援していただきました。心強くて、年甲斐もなく、涙が出る思いです。ロータリーって、良いなとつくづく思いました。今日もそんな一助を皆さんに伝えられればいいなと思っております。最初、何を言おうかと思ったら、これは本物のバラの花です。黄色のバラの花言葉は、ジェラシーです。私の健康に対するジェラシーの表れかなと。私は黄色のバラは大好きです。もらうとドライフラワーにして、部屋の中にかすみ草と一緒にドライフラワーがあちこちにあります。今日はもらって帰ろうと思っています。

公式訪問をやってきてスライドは変わっても、骨子は変わらず、クラブによって、減らしたり足したりしながらやってきました。秩父ロータリークラブは自分のクラブなので、ある程度、はしょりながら進めたいと思います。まず、プロフィルを紹介しました。地区バッジの由来、お元気三猿と北辰のフクロウの宣伝をさせてもらって、地区大会には来て、神社を見て行ってくださいという話をしました。

ＲＩ会長メッセージは、年度計画書の中に載せてもらってますので、抜粋を皆さんにご紹介

しながら、これに沿って話をします。ガバナーになってから、ガバナーって何をやるのという事から始まったのですが、基本的には、ＲＩ会長メッセージを各地区に持ち帰って、それに沿った形で、地区方針を作り、それを各クラブ員に紹介するのが一つの役目です。ＲＩ会長メッセージはどうしても伝えなければいけない。読んでみます。「私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために人々が手を取り合って、行動する世界をめざしています。変革は戦略で始まるのではなく、自分自身の中から始まる。」これは、オライインカ会長はナイジェリア出身で、もともとは、ローターアクターで、今は成功してますが、当時は親クラブで嫌な思いをしていたという話をしていました。その辺からロータリーについて、内面から掘り下げて、感じているようでした。

CREATE LASTING IMPACT 持続可能なインパクトを生み出そう。ポイントは持続可能というところらしいです。今までは単年度の良さがあり、発展してきました。高度成長に則り、ロータリークラブは発展しました。私などは、数十年前だったら、入会できないような、地域の名士で、お金があり、時間もある。こういう方が、地域の中で奉仕をし、みんなで集まって、親睦も深めるという事だったようです。けれども、単年度で終わるという事。秩父でも時計台を直したりしました。時計台を寄付するのはいいのですが、建てるのはいいのですが、それっきりになります。それは、ロータリークラブだけではなく、他の行政などもそうかもしれませんが、後の事を考えずに、みっともない物になっている。これは持続可能なという意味では、SDGs もそうですが、持続させなければ、ダメだろうと。こういう事も弊害であったと。故にこれがあるのではないかと。これを研修で感じました。一時的な変化ではなく、地域社会、世界、私たち自身の中で、持続可能な良い変化を起こし続けること。ビジョンを実現するため、内なる変化を解き放つことが求められていますという事で、会長メッセージの要点は、３つでした。ロータリーによる自己変革。入って良かったの共有。変化をインパクトへ。

今日も入会間もない方にこの話をしましたが、ロータリーにより自己変革とは。仕事、ビジネス、家族。そして私たち自身をよりよく形づくってくれた原体験を大切にする。入って良かったの共有。このポジティブな退会防止や会員増強を推進する。最大の原動力になる。

最初のロータリーによる自己変革。ロータリーとライオンズとの違いもそうですが、ロータリーは I serve です。自分自身です。みんなで何かやるというより、自分がどう変わるか。自分のためになるかどうか。こういう事がないと、ロータリークラブに入っている意味が薄れていく。今日も出ましたが、ロータリーには「イエス」か「はい」しかないと。入会を強く誘っている方は分かると思いますが、この中で、重鎮２人に来られて、入会するしかないと言われると、入るしかないよと。ただ、秩父クラブは辞める人が少ないです。でも、私が知っている限りでも合わないと、辞めていった方がいます。これは、自己変革のあたりの事が、見つかっていなかったかなと。これが会長メッセージはこんな事です。

強調事項と優先事項の話ですが、ポリオ根絶、平和推進、会員増強とクラブの活性化、インパクトをもたらす奉仕です。ポリオを先に持ってきます。なぜポリオが最初なのと。ガバナー研修に行くと、ビデオを見せられます。私が見たものは、白黒で、財団がつくった日本のビデオです。お母さんが、足の曲がったお子さんを連れて、病院に行き、「先生、うちの子は立てないんです。足が変なんです。どうにかなりませんか」と。患者を診た医者は、「お母さん、小児麻痺だね。」「治るんですよね。」「治りませんよ」といったビデオでした。お母さんは泣きながら「何とかしてください」と。何とかならないのが小児麻痺です。昭和４０年ころのビデオで、私は３５年生まれなので、同級生に小児麻痺の人がいました。それを考えると、ロータリーが世界からポリオを撲滅しようと思った１９８５年から。日本でもロータリー財団からポリオ根絶にお金が落とされています。世界中でなくなってきて、やっと残り２か国。ここまで来ているのだけれど、ここからがしぶとい。なかなか消えない。「ラスト１マイル」と言われていますが。

なぜこうなっているかと言うと、次の平和の推進にかかわってきます。ロータリーは戦略として、ポリオを世界中からなくしながら、平和の推進がポリオの後を追いかけてきました。ロータリーはポリオなくしましょうと。こういう形で進んできた。これを平和の推進にも役だてる。ところが残っているアフガンとパキスタンの２か国は、なぜスムースにいかないかと言うと、平和がないからです。紛争地域なので、ロータリアンが入っていけません。

そうすると、ロータリーのポリオ根絶のフレーズが少し変わっています。今は平和推進が、ロータリーで注目されています。今は、イランの問題、ウクライナの問題。紛争が世界中に絶えなくなっています。ロータリーは行政でもないし、力を持っている権力集団、宗教でもありません。でも、草の根運動は非常に力を持っています。草の根運動が、平和を先に進めないと、ポリオを根絶できないという状況になています。どうしてもあと２か国のポリオを根絶したい。五十畑さんの年度の地区大会では、ポリオ菌をゼロにする事は出来ないけれども、発症はゼロに出来る。一滴のワクチンを接種させればいいと。何とかこれを推進したいので、ポリオ根絶を最初に持ってきて、平和の推進に関しては、平和フェローセンター、世界に８か国。日本ではＩＣＵの中にあります。財団から大きなお金を落としながら、平和を維持させるスペシャリストを育てようとしている。この２つに関しては、各クラブには、「俺は知らないよ。遠すぎるから分からない」と言わないでくださいとお願いしました。

ポリオの根絶に関して、財団の寄付金額は、目標を決めてあったり、平和フェローにもＲＩからお金が出ています。決められている以上に皆さんにお願いするというより、今やっている

事にご理解を示していただければ、いいのではないかと思っています。それだけで、ロータリーのイメージが変わってくると思います。それとクラブの活性化と確かな奉仕。これは、私たちクラブが出来る事だと思います。クラブの活性化は多様な人たちが歓迎される温かい場所としてのクラブづくり。

今日の懇談会で、クラブを辞めたいと思った人と聞いた時に、３人くらい手を挙げました。公式訪問をやってきて、多いクラブでは、８割くらい手を挙げました。私自身が思っていましたので。秩父は、３年未満の人の中にはいませんでした。温かい場所があるのかもしれません。言われたのが、よく声を掛けてくれると。それは今私が非常に感じています。入会当初、宮前洋一会員から言われた事は、入会したらロータリーは、equal conditions でいいんだよと。仕事上の付き合いがあっても、仕事はばんばんしていいよと。でも上下もないよと。温かいなと思いました。補佐になった時に、重鎮に腕組みをされて、呼ばれていった席で、原島君がうんと言わないと、自分たちは帰れなんだと。呼ばれて行って、うんと言わないと帰れないと言われる。これは今で言うパワハラです。でもこれが成り立つ世界ですが、ロータリーの裏側は、皆さん優しいです。ロータリアンの真髄はここだと思います。

まだ覚えているのは、金子千侍ガバナーが何十年か前に北海道の雪印だったか。賞味期限偽装だったか、産地偽装だったか。その時にロータリーバッジをしたまま、社長が記者会見に臨みました。金子先生は激怒して、即刻辞めろと、地区へ電話していました。ロータリーの真髄は、企業倫理を高める事ですから、一番やってはいけない事をやって、バッジを付けて、謝罪会見会見に臨んだと。なぜ、起こったかと言うと、ロータリーには罰則規定がありません。入会して皆さんに分かってもらえるのは、日本中、世界中でロータリーバッジを付けていると、ロータリアンとしてのつながりを感じます。これがクラブの活性化なんだと思います。

数よりも長期的なインパクトを、確かな奉仕。奉仕活動もしましょうねと。私自身が誤解していましたが、地区内のクラブで、人数の大小がありながら、ロータリーらしくないクラブがあるのではと思っていましたが、そんな事はなく、ロータリークラブはロータリークラブの外してはいけないところを皆さん、持ってました。安心しました。単なる老人クラブとか、同好会にはなっていなかったので、まだ人数は関係ないなと。盛り返す事は出来るんだろうなと。ここまでがＲＩ会長のメッセージで、これを広めるために地区では、このような事にしました。

活動方針として、クラブが地域になくてならない存在となるために。ロータリークラブとして必要な事です。そこで、スローガンとして、「ロータリーに誇りを」という事を私は決めました。原島の思いとしては、世界のロータリアンが、みなぎる活力の源は、自らの活動に対する確固たる誇りにあります。小さな奉仕から大きなプロジェクトまで、すべてに誇りを持ちましょうと、私は思って、１年を乗り切ろうと思っています。

アメリカに研修に行って、世界中のロータリアンは、外国人の方は熱く語ります。ポリオの手伝いをして、募金活動をしているとか。こういう事だけですが、彼らはその活動に誇りを持っている気がしました。我々も金と時間を使って、ロータリー活動をしているのだったら、そこに誇りを持てたら、いいのではないかと。

そこでクラブ協議会は、私より長く在籍する諸先輩方のロータリー活動に誇りを持った事をお聞かせいただければ、一助になるし、若い方が、ロータリー活動をやる時の参考になればと思っています。

そして４つ考えました。魅力あるクラブの進化、ロータリーブランドの確立。ポリオ根絶のラストスパート。次世代の育成。魅力あるクラブの進化。退会したくならない居心地のいいクラブの追求。ＤＥＩ、私としては地区の組織からＤＥＩをなくしました。理由は、地区の組織をスリム化したかったです。なかなか進まなかったので、来年度、再来年度に引き継ぎたいと。

ＤＥＩは、ロータリアンは誰一人として悪い人はいない。みんな優しいです。なので、今更委員会を作って、伝える必要はないだろうと。ロータリーブランドの確立、地域に不可欠な団体。これはクラブによって、差があります。秩父はどうでしょうか。秩父エリアで、ロータリークラブがなくなったら、地域で困る方たちはどのくらいいるでしょう。まだ弱い部分があるかもしれません。ポリオ根絶のラストスパート。これは、１１月１日にスリーデーマーチがありますが、今年は２００名程度参加するようです。世界中でポリオ根絶をやっていると。次世代育成と絆。秩父クラブは弱い部分かもしれません。米山であるとか、青少年の育成など、途切れています。若い世代が育たない組織は、衰退します。これが、地区の活動の方針です。

なんで地区を９グループ制にしたかと言うと、先週五十嵐さんが語ってくれています。週報を読んでください。地区はクラブのためにあるという事を実現したかったです。どういう事かと言うと、クラブ内でどうしたらいいかわからないという事が起きています。だったら、補佐に聞くべきだと。補佐がそれを地区にあげると。今まで地区は独自にやっていて、クラブと対峙する場面が歴史的にもあったような気がします。地区はクラブのためにあるのだから、補佐の役目が大きいだろうと。そこでクラブに目を向けるために、クラブ数が多かったので、細分化したという事です。３年は９グループ制にします。

最後のパートですが、私が一番言いたいところです。奉仕の精神とは何だろうと。究極の自己投資ですと。ロータリーの奉仕は、自己犠牲ではなく、巡り巡って、自分自身の喜びや成長として返ってくる究極の自己投資にならなければ、いけないと思っています。今日の懇談会でも、時間的な制約があるが、始めたからには一生懸命やって、頑張っているという会員がいます。素晴らしいけれども、あまり無理しないようにというのが、私の気持ちです。ロータリーは変革期ですので、カジュアルなクラブが増えています。世界中で、もう少し楽な気持ちで例

会に参加したいなと。無理しすぎて、奉仕活動が自己犠牲になると、長続きしません。仕事を磨き、自分を磨き、心の許せる仲間をつくる。その行動に誇りを持つ事から、すべてが始まります。

アメリカ研修に行った時に、ロータリー財団寄付額が最高のインドの方が紹介されました。寄付金額は１３５億円でした。その人と話す機会がありました。「俺がここまで来たのは、ロータリーのお陰だ」と話していました。最初に自分を変えると話しましたが、ロータリアンの中には、仕事を頑張って、大儲けする方がいます。これこそ、ロータリーに金と時間を使って、究極の自己投資をしているという事です。そうすると、世界的な企業ですが、１３５億くらい寄付する人が出てきます。日本では、ホシザキの会長が５５億寄付しました。金額ではないと思いますが、心意気だと思います。

究極の自己投資。これが分かると、非常にロータリー活動も経済活動としても、おもしろくなるのではないかと思います。

出席率

免除以外の会員	出席免除会員	出席	メイク	出席率
7	0	4	0	57.1%

